

歴史と文化が薫るまちづくり事業 中間報告書

『歩いて発見！ 小粋なニッポン』

平成 2 1 年 1 0 月 6 日

南 砺 市

目次

1	モデル地域の特性とまちづくりへの考え方.....	2
2	モデル地域のエリア.....	3
3	地域資源.....	4
4	地域資源の連携方策.....	10
5	歴史と文化が薫るまちを作る役者たち.....	12
6	歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群.....	13
(1)	ソフト施策.....	13
(2)	ハード施策.....	15
7	歴史と文化が薫るまちの姿.....	16
8	歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール.....	17
9	年度別事業費、費用負担割合.....	17

1 モデル地域の特性とまちづくりへの考え方

本地域の歴史的文化的な特徴として、次の諸点が挙げられます。

まず第一は、1580年頃に福光から移転した**善徳寺の寺内町**として、町の基礎が形づくられた（と考えられる）ことです。

第二には、城下町のような武士という巨大な消費層を持たないため、**周辺農村を対象とした在郷町**として歩んできたことです。

第三には、五箇山街道（朴峠）などを通して五箇山と結びつき、**五箇山の生産物と生活物資を取り扱う流通・金融の中継点**として栄えたことです。

第四には、越前や尾張からの来住者によって始められ、五箇山の生糸と農村労働力を背景として、加賀藩の庇護のもと**絹織物業**が栄え、京都や江戸にまで販路を誇りました。

第五には、こうした歴史や経済に支えられて、伝統工芸や芸能、曳山、街並みなどの**町民文化と信仰が色濃く残っており**、越中の小京都とも呼ばれています。

第六には、扇状地と山岳の境目に位置することから、水と緑の**豊かな自然や多彩な農作物**に恵まれていることです。

第七に、国道の整備により街並みの改編を余儀なくされましたが、かつての雰囲気を受け継承するよう努めたほか、アニメーションやロボットづくりなどの産業も興るなど、**新旧が融合したまちづくり**が進められています。

そして最大の特徴は、こうした古くて新しいニッポンを象徴する多彩な性格が狭い歴史的市街地に重層的に凝縮されていて、さまざまな「よさを歩いて体感」することができることです。

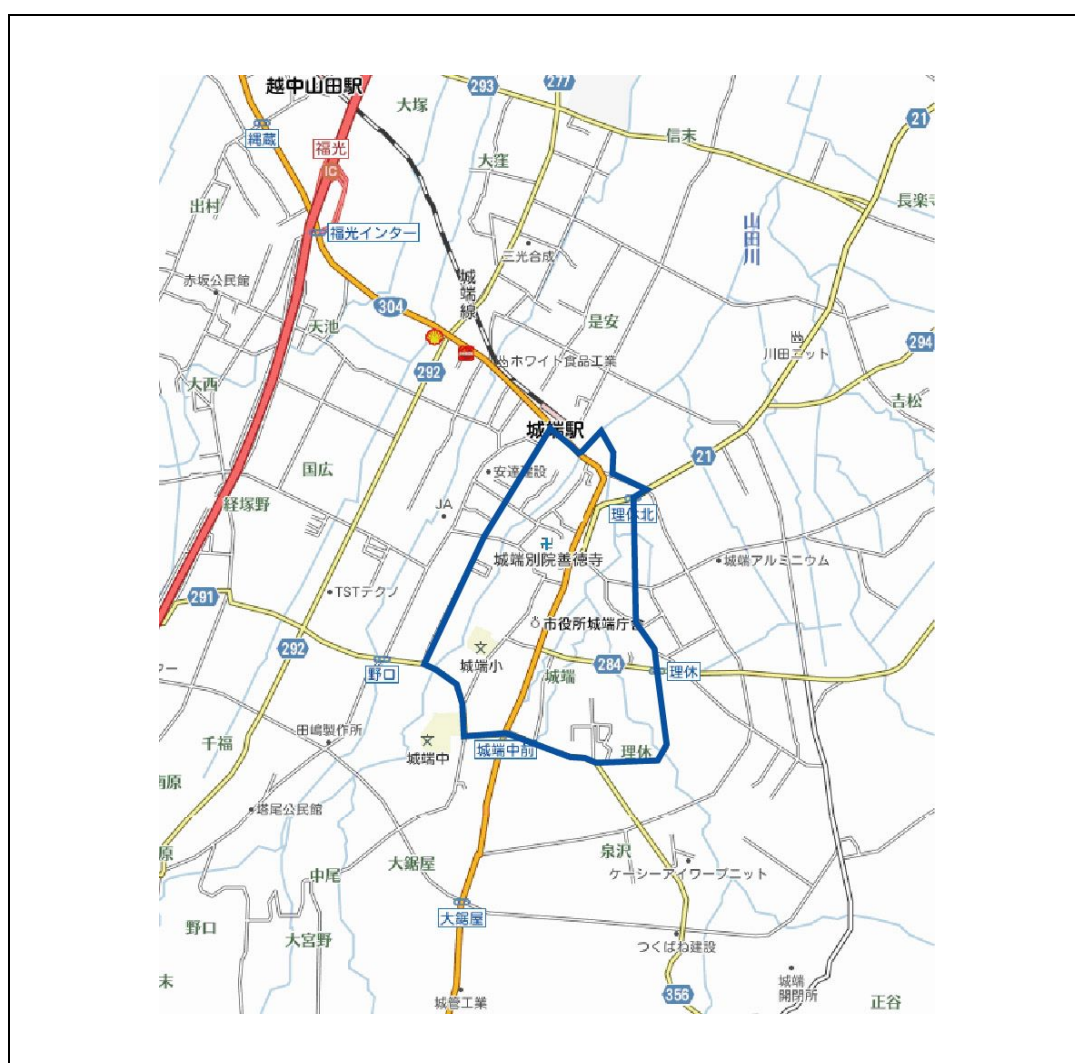
心の豊かさが求められる今日、脇目もふらず車で通り抜けるのではなく、四季のうつろいや人々の暮らしの息吹を感じ、地域の歴史、先人達の努力や祈りなどに思いを馳せながらゆっくり歩いて豊かな時間を楽しめるまち「小さなクール・ジャパン」をめざすこととします。

2 モデル地域のエリア

本事業におけるモデル地域のエリアは以下の地域とします。

なお、エリア選定の理由として、以下の点が挙げられます。

- 善徳寺を中心として形成された寺内町の趣を残していること
- 国重要無形民俗文化財「城端曳山祭」が行われること
- 千本格子の家や土蔵群など古い町並みが残っていること
- 地域に入るために必要と考えられるエリアであること
- 歩いてまわれるコンパクトな範囲であること。



設定エリアは、山田川と池川に挟まれた、歩いて巡るまちエリアと、エリアに入るための道路（まちエリアへの誘導サイン等を整備する）で囲まれた地域です。

3 地域資源



神明通りのソメイヨシノ

城端神明宮の参道両側 300 メートルに数百本ある桜並木です。4月になると毎年桜のトンネルのように、きれいな桜を見ることができます。



善徳寺境内のしだれ桜

城端別院善徳寺には樹齢 350 年になるしだれ桜(糸桜)があり、この桜が咲く期間だけ、式台門という格式ある門が一般開門されます。また、町内にはいくつもの桜の名木があり、見事な花を咲かせます。城端しだれ桜祭りの期間中は様々な催しものが開催されます。



城端別院善徳寺

城端別院善徳寺は、真宗大谷派の大刹で、山号を廓龍山と号し、開基は本願寺第八代蓮如上人です。開基から 530 年余りを経ており、本尊は行基作と伝えられる阿弥陀如来像で、宝物収蔵館では貴重な古文書や宝物を見学できます。

近隣の井波にも別院瑞泉寺があり、別院同士がこれほど近いものは全国的に珍しいことです。



土蔵群

古くから絹や織物産業で栄えた城端地域に、今でも町のあちこちに土蔵群が残っており、風情ある街並みを形成しています。



千本格子の残る街並み

善徳寺の寺内町として、町の基礎が形づくられた城端地域には、古い町並みが残っています。その中でも千本格子の残る家も多く、坂の多い地形とも絡み、特徴的で趣のある街並みを形成しています。



曳山会館

曳山会館では、先達の匠の技が光る傘鉾、曳山・庵屋台などが、広い室内に常時展示されています。また、ロビーでは、曳山祭の様子を撮影したビデオが放映されており、情緒溢れる祭の雰囲気을いつでも楽しむことができます。



蔵回廊

城端町の豪商の土蔵群を利用した城端町史館。本館では城端町の歴史に関する資料を常設展示しています。伝統と新しさという両極性に考慮しながら、土蔵造の伝統的建築様式を基本デザインした建物は、建物自体が展示物となっています。



じょうはな織館

昭和3年に建築された城端織物組合事務棟を平成15年春改修。城端絹織物を現代に伝える新たな交流施設としました。国の登録有形文化財に指定されている建物は昭和初期のレトロな雰囲気を残し、優雅なひとときを味わえます。



じょうはな座

じょうはな座は、伝統芸能の継承と現代文化の創造を通して、まちの賑わいを育む多目的ホールです。城端の伝統的な町屋の様式や芝居小屋の意匠をたくみに採り入れた施設は、風情あふれるまちなみと溶け合って、城端に新しい表情を描き出します。



五箇山街道

昔から地理的、経済的につながりの深かった城端地域では、五箇山との交易が盛んでした。五箇山からは和紙や絹を、城端からは米や生活物資を運んでいました。当時、城端地域と五箇山を結んだのが五箇山街道です。



小路、坂

城端市街地は河岸段丘によって形成された地形上に位置しているため、坂が多くあります。また、車の通ることのできない小路も多く、住んでいる人の息遣いや風情が残り、昔ながらの歴史文化が漂っています。



城端曳山祭

城端曳山祭は、毎年5月4、5日の両日に行われる城端神明宮の祭礼で、寺内町の面影が残る越中の小京都城端の春を彩ります。曳山巡行とともに庵屋台にて庵唄を若連中が披露します。

江戸時代の祭礼形式を現代に伝えるこの貴重な祭は、昭和56年、富山県無形民俗文化財に指定され、平成14年2月には、国重要無形民俗文化財に指定されました。



城端むぎや祭

初秋の風が吹き抜ける城端の町並みを情緒一色に染めあげる城端むぎや祭は、昭和 26 年に初めて開催されました。以来、毎年多くの人手で賑わいを見せます。むぎや節は、おわら風の盆とともに、富山県を代表する民謡として広く知られ、その哀調を帯びた旋律が人々を魅了しています。



虫干法会

善徳寺では、古文書など、1万点以上の宝物を所有しています。それらの一部を、虫干を兼ねて7月22日から1週間にわたり一般公開するのが虫干法会です。加賀藩前田家より拝領の宝物など、約9百点が座敷・御殿に展示され、それらについての解説や絵解きが行われます。



つごもり大市

昔から地理的、経済的につながりの深かった城端地域では、五箇山との交易が盛んで、五箇山からは和紙や絹を、城端からは米や生活物資を運んでいました。2月末日、降雪の緩んだこの時期に、年始のあいさつと精算のため五箇山から訪れた人々をもてなし、市が立ったのが「つごもり大市」の由来です。



城端蒔絵

城端に古くから伝わる城端蒔絵は、城端塗とも治五右衛門塗ともよばれ、その白漆の技法は異彩を放ち、全国的にも特異な存在として知られています。天正年間に城端で漆師屋をはじめ、代々治五右衛門を名のり、現在も一子相伝の技法として、受け継がれています。



城端仏壇

城端仏壇は朱色が取り入れられ、全国的にも珍しく独特の色彩を醸し出しています。仏壇は比較的高価なものなので、城端仏壇と言う産業が成り立っていたことから、比較的経済地盤が強かったことの表れだと考えられます。



絹織物

城端町では今から約 400 年前の天正年間に絹織物が始まったといわれています。元禄年間には、町の約半数以上の家庭が機織りに従事していました。五箇山や福光で養蚕や糸をつくり、その糸から織った絹織物は『加賀絹』として京都の絹問屋と取引され、京都から江戸へと渡ったといわれています。



繊維産業

城端町は江戸時代から絹織物の産地として知られてきました。現在では、複合素材や柄組織の開発などにも優れ主要な産業として位置づけられています。



電子部品関連

電子部品は県の製造品出荷額の 10% を占める主要分野です。

近年、城端地域の企業にて新たなセンサーを開発し、アザラシ型癒しロボット「パロ」の製作に役立っています。



映像コンテンツ

アニメ「true tears」(トウルー・ティアーズ)は、城端のアニメ会社「ピーエーワークス」が制作した、5人の高校生男女の青春群像劇。城端の古い町並みや曳山祭などが随所に登場し、民放やケーブルテレビなどで放映されてからは、ファンの中で「true tears」「聖地巡礼」がブームとなっています。



ロボット製造(パコ)

工学博士柴田崇徳さん(城端地域出身)が中心となって研究・開発したアザラシ型癒しロボット「パコ」は、介護施設に導入されるなど、世界的にも人気があります。



農林水産物、和菓子

柿、干柿、城端牛、かぶら寿司、城端麦酒、がや焼き、むぎやポーク



グループ

- 越中城端麦屋節保存会
- 観光ガイドグループ機の声
- 城端ナチュラリスト研究会
- 城端創生グループ(若手経営者で作る勉強会)

4 地域資源の連携方策

善徳寺を中心として栄えた街には歴史的な建物や路地、旧街道など寺内町（門前町）としての趣が残り、街の両側に川が流れ、三方を山に囲まれて京都のような風情が漂っています。伝統芸能として、曳山祭での庵唄やむぎや祭での五箇山民謡などの保存活用も盛んに行われ、南砺市城端伝統芸能会館「じょうはな座」を活用して伝統芸能を披露するための定期公演も行われています。また、商店街には古くから残る、呉服店、和菓子店、履物店、和食処、仏壇店など城端特有のお店も多くあります。これらを利用した体験・買物・散策コースの設定を考えています。

多様な関心に応じながら、楽しく歩くための仕掛けづくり

本地域の地域資源はジャンルのにも、歴史的にも、季節的にも多彩です。こうした豊富な資源を年齢・性別・国籍等の異なる幅広い人々に楽しんでもらうためには、従来のようないわば「お仕着せ」型の情報提供では限界があります。

多様な客の興味と関心にあわせて、資源情報（を組み合わせた観光コース）を提供していくことがますます重要になると考えられます。

このため、基本となるテーマ・コースや季節毎のコースを設定する（マップなどで紹介）一方、インターネットのキーワード検索を活用して、自らの関心にフィットした「オーダーメイドのまち歩き」ができるようなシステムを構築することとします。

また、より深い情報を求める層に対しては、コンシェルジュ機能を確立するとともに、専門的なガイドを養成することにより、まち歩きの感動アップとリピーターの拡大に努めます。

観光施設と商店等をセットにした散策コースの設定

平成20年にブームを巻き起こしたアニメ「true tears（トゥルー・ティアーズ）」の影響でアニメに描かれた城端の街を訪れるファンが急増しています。この機会を捉え、「じょうはな座」にて映像コンテンツを活用したイベント（アニメ祭、シネマ歌舞伎の上映等）を定期的を開催し、新しい文化と古い歴史ある文化の融合を図り、城端地域の歴史と文化の薫るまちづくり事業の実施を考えています。

上記のキーワード検索の結果も参考に「関心の連鎖」を分析することにより、観光だけに止まらず、買い物や食事、学びなども結びついた点から線、線から面として楽しめるまちをめざします。

先端情報産業(アニメ、ロボット、情報等)と文化歴史産業との融合による全国発信、
そして定住人口の増加へ

かつて、善徳寺の寺内町として人々に祈りと安らぎを提供し、五箇山からの蚕を利用して雅びな絹織物が根付き、戦後には近代的な電子部品産業が栄え、最近では癒しロボットやアニメ工房が興っています。

恵まれた水と緑の環境や地域ならではの景観を守るとともに、こうした情報・感性産業を地域の新たな産業の核と位置づけ、先端的な情報と多彩な人材のネットワークを強めながら、歴史的蓄積とも融合した個性的創造的なまちづくりを進めていきます。

地方の小さなまちの新たなチャレンジは、国の内外からも注目され、来訪者だけでなく定住(移住)者の増加につながることも期待されます。

5 歴史と文化が薫るまちを作る役者たち

現在、城端地域では下記のメンバーによって来訪者へのおもてなし活動と芸術文化の保存継承が続けられています。

< 情報発信 / おもてなし >

観光ガイドグループ「機の声じょうはな」

城端ナチュラリスト研究会

城端時報（昭和21年4月から発刊している城端限定ミニ新聞）

< 伝統芸能継承 >

城端庵唄保存会

城端曳山祭連合会 / 庵連合会

城端曳山祭保存会

越中城端麦屋節保存会

< まちづくり >

NPO法人創藝

NPO法人クラブJOY

城端創生グループ

南砺市商工会青年部・女性部城端支部

上記以外にも、城端西町商店会メンバーにより城端別院善徳寺境内にて「お寺 de フリマ」と題した、フリーマーケット(のみの市)を開催し歴史資源を活用した活動を行っています。

地域のにぎわい、まちづくりにおいては多くの地域住民が関わることでより効果的なものとなります。近年は、様々なNPO（特定非営利組織）が地域に根付いた活動・交流を行なっています。

城端地域に在籍するNPO法人（特定非営利活動法人）とは、今後まちづくりでの連携をはかることで、地域のまちづくり活動への活性化が期待されます。

6 歴史と文化が薫るまちづくりへの施策群

(1) ソフト施策

ソフト施策案として以下のものが挙げられます。

コンテンツ作成だけを目的とするものではなく、各施策は地域住民が参加することを提案します。施策を実施する過程で地域住民のまちづくりへの知識・意識が高まり地域に根付くことが効果として期待できます。

【ソフト施策案】

- 城端マップ作成（季節ごと、善徳寺回遊マップ等）
- 携帯電話案内システムの整備
- 城端線での案内サービス（公共交通機関の活用）
- まちなか案内人の育成
- 各店オリジナル商品の開発（例：地産地消を活かした食の開発）
- パンフレットの作成（寺社、坂・小路などテーマに分けた表記）
- 城端アーカイブ（昔の写真・映像記録を集める）
- 城端風景写真コンテスト（町内外を巻き込んだ参加型イベント）
- 城端曳山祭り・城端むぎや祭の映像ライブラリー
- シャトルバスの運行（城端ハイウェイオアシスなど主要拠点から）

【ソフト施策案具体的な手法】

ここでは上記のソフト施策案について一部具体的な手法を挙げます。

城端マップ作成、パンフレットの作成

普通の名所紹介はありきたりであり、多くの歴史文化資源や良好な風景を有する城端では一度に並列して情報を載せる形式は向いていないと考えます。寺内町であることを来訪者だけでなく地域住民にも認識してもらうよう寺社の回遊マップ、四季の見どころマップ、坂・小路マップなどテーマを設定したものが望ましいと考えます。

また作成の際は、物語（エピソード）を沿えて展開していくことで趣があり他にない刊行物が作成できます。地域住民が参加し、自分達が知っている物語（エピソード）を集めて作成することがよいのではないのでしょうか。

以前に、城端商工会女性部によって手作りの城端マップやパンフレットが作成されています。このリニューアルとして作成することも1つの施策案として挙げられます。



まちなか案内人の育成

城端では観光ガイドグループにより観光案内をおこなっています。

地域観光案内において、個々の知識に頼ることや地域住民が気付かない来訪者からの意外な質問に戸惑うこと等があり知識の共有化が不足していることがあります。

知識の共有化の為に「まちなか案内人の勉強会」を提案します。勉強会は広く地域住民の参加を募ることで、まちの良さを地域住民にも知ってもらう効果もあります。また、多くの住民が参加することで、季節・寺社・小路等テーマを設定し模索するモニターツアーや勉強会を開くことで新たな散策ルートの発見にも繋がると考えられます。

城端アーカイブ（昔の写真・映像記録を集める）

城端の地域住民が所有する昔の写真・映像記録を集める活動を行います。集めたものを来訪者に向けて定期的に発表する場としてじょうはな座の利用も考えられます。

この活動により城端の歴史・文化資料を自分達で作る喜びとともに、昔を思い出しながら語り合うことで地域内の交流・絆が深まることが期待できます。

城端風景写真コンテスト（町内外を巻き込んだ参加型イベント）

城端にはいくつもの素敵な風景があります。山川の風景、坂、小路等々あげればきりがありません。そのような風景を町内外問わず参加者を募り、撮影写真を募集、定期的にコンテストを行うことも1つの手法です。

じょうはな座で写真展を開催するとともに、選考された写真の投稿者を表彰します。選考された写真はホームページ化し、撮影場所の地図とともにパソコン・携帯で見られるだけでなく、選考者には、撮影した風景を地域のアニメ会社に依頼し風景画を作成、貴重なプレゼントとして提供することも楽しい手法として考えられます。

城端曳山祭り・城端むぎや祭の映像ライブラリー

来訪者向けにお祭りの映像をじょうはな座にて体感。

通年での祭り紹介、じょうはな座での大型スクリーン（縦4.5m×横7.7m）でフルハイビジョン映像による上映を行います。

じょうはな座の誘客と商店街との連携を図り、祭りと地域内への誘客へ繋がります。

シャトルバスの運行

城端ハイウェイオアシスなど主要拠点からエリアまでシャトルバスを運行し、車で城端を訪れる観光客が、駐車場などの心配をせず、楽しくまち歩きができるようにします。

【地域ならではの新たな可能性】

近年、アニメファンの中でアニメファンがロケ地を訪れる「聖地巡礼」という活動がブームとなっています。「true tears」(トゥルー・ティアーズ)が城端を舞台とし、城端にあるアニメ会社「ピーエーワークス」が制作したことでアニメによる町おこしの可能性が生まれています。

ソフト施策案としてアニメとの連携から以下のことが挙げられます。

- ・土産品にアニメ絵を載せる(がや焼き、城端麦酒等)
- ・曳山、むぎや祭りの宣伝にアニメのポスターを作製
- ・ファンを募ったむぎや体験

(2) ハード施策

ハード施策案として以下のものが挙げられます。

案内表示等充足化(善徳寺等主要拠点での音声案内等も含む)

歩行者のベンチ等休息施設整備(木彫刻など周辺産業と連携した)

施設を利用したオープンカフェとして地元菓子をPR

各家ないし各町内ごとに木彫刻による特徴ある飾りを設置

7 歴史と文化が薫るまちの姿

将来のまちの姿を以下のように考えています。

『歩いて発見！ 小粋なニッポン』（仮）

城端は他のまちに比べ、いくつもの素敵な風景があります。寺内町特有の寺社が所々に建ち並ぶ風景、千本格子の古い家々、山川の風景、坂・小路等々あげればきりがありません。そして、アニメのロケ地により新しい風が生まれています。

まちを少し歩くだけでも様々に変わる風景の数々がこの地域にはあります。それに四季折々の風景が加わることで万華鏡のように不思議な景色がひろがっていきます。

一部分だけでも素晴らしい風景に出会えますが、寺社、坂・小路、春の風景などテーマを持って歩くことで、まちの楽しい歩き方が分かります。普通のまちでは見かけることができない坂・小路の数々に子供が喜び散策し、古い建物や寺社に趣を感じてお年寄りが散策し幅広い世代にも対応できます。

そのような散策を広く地域住民が知り、城端を訪れる来訪者に伝えることができれば、散策する人々によってにぎわうたのしいまちができるのではないのでしょうか。

そう、「歩きながら、小粋なニッポンが！ そして新しい自分が！ 発見できる」。城端はそんなまちです。

8 歴史と文化が薫るまちづくりへのスケジュール

(最終報告書に記述)

9 年度別事業、費用負担割合

(最終報告書に記述)

城端地域の各分野の代表者で構成する検討委員会を設置するとともに、モデル地域のさまざまな利害関係者にヒアリングを行い、最終報告書を作り上げていきます。